



ちばの学童保育

2012年3月11日発行90号

本号の紙面	
千葉県学童保育研究会報告	1頁
学童保育情勢/ほいく誌紹介	2頁
八千代市指導員会	3頁
全国指導員学校/編集会議	4頁

発行者 千葉県学童保育連絡協議会 船橋市本町3-4-3 千葉保育センター内
 TEL047-424-8102 FAX047-424-8108 e-mail chibagakudo@nifty.com

思いは一緒 保護者と指導員 第35回千葉県学童保育研究会報告

平成24年2月26日(日)市川市勤労福祉センター本館 10:00~15:30

今回の研究会では、東日本大震災で被災した福島県いわき市の指導員(市連協事務局長) 鈴木玉江さんから特別報告をしていただきました。

鈴木さんは3.11の翌日から始まった行方不明者の捜索で、「あちらこちらに、衣服を身に纏わないで血だらけの遺体がたくさん・・・子どもをくるんでいるであろう布・・・」が目の前に広がっていたこと。そして、第1原発のことを知った13日、全町民の避難が始まり、瓦礫の中を通りながら、『この中には助けを求めている人がいるんだ。自分たちだけでごめんなさい。』と思いながら逃げたことを話され、ニュースでは知ることのできない当事者の心情に会場全体が静まり返りました。そして、いわき市の学童では子どもが外で遊べる時間が30分に制限されていることや、元の場所に戻れたけれど、放射能の心配があり本当に戻ってよかったのかなど、その葛藤を率直に伝えてくれました。



シンポジウム

シンポジウムは「震災を踏まえて ~今、学童保育で考えたいこと」を小児科医の細山公子さん、管理栄養士の金井セツ子さん、指導員石田かづ子さんと鈴木玉江さんがそれぞれの立場から、3.11当日の状況や震災に関して思うところを話していただきました。

会場の皆さんが一番に耳を傾けていたのは、「放射能物質の除去や排出の仕方」です。金井さんから「カルシウム不足の体にセシウムが入り込むと、体が勘違いして取り込もうとします。だから、野菜をしっかり摂ることが大切です。」という話が始めると、身を乗り出す参加者が多くいました。また、「今回も神戸の経験を生かせなかった」「チェルノブイリを参考に!」と話され、参加者の胸に「この震災は教訓にしてくれは」という強い思いを抱かせるシンポジウムになりました。



第7分科会「親子でクッキング・おやつ作り」

午後の分科会では、どの会場も活気がありましたが、中でも第4分科会の「親子でクッキング・おやつ作り」は教室いっぱいに酢飯の良い香りが広がり、皆さん笑顔で参加していました。レシピは「桜餅」と「祭り寿司」。お母さんと一緒に小学生もチャレンジしていて、楽しんでいました。

第7分科会は参加者が多く、やはり「子どもの成長・発達と子育て」というテーマは、保護者にも指導員にも興味関心が高いようです。現役の小学校教員の話ということもあって、共感する話がたくさんあり、うなづく場面の多い分科会でした。

学童保育をめぐる最近の動き



2012年2月3日「子ども・子育て新システム検討会議」で基本制度ワーキングチームの最終とりまとめが下記の様に発表されました。

小学校4年生以上も対象となることを明記し、4年生以上のニーズも踏まえた基盤整備を行う。

放課後児童クラブについては、市町村が地域のニーズ調査等に基づき実施する旨を法定する。市町村は、市町村新システム事業計画(仮称)で需要の見込み、見込量の確保策を記載し、提供体制を計画的に確保する。

質を確保する観点から、職員の資格、員数、施設、開所日数・時間などについて、国は法令上の基準を新たに児童福祉法体系に設定する。

国が定める基準を踏まえ、市町村が基準を条例で定める。職員の資格、員数については、現行の事業実態を踏まえ、「従うべき基準」とすることも含め、法制的に整理する。

利用手続きは市町村が定める。ただし、確実な利用を確保するため、市町村は、利用状況を随時把握し(事業者は市町村に状況報告)、利用についてあっせん、調整を行うことを検討する。

次に2月14日に国会内において超党派で結成された「公的責任における放課後児童クラブ(学童保育)の抜本的拡充を目指す議員連盟」の設立総会が開かれました。この総会には、70名を超える参加者が集まり、議員・秘書・厚生労働省・文部科学省・内閣府・総務省からも参加しました。全国学童保育連絡協議会もオブザーバーの立場から参加を求められ参加しました。

日本の学童ほいく

日本で唯一の学童保育に関する専門誌です。月刊で発行。1冊330円(送料76円)でお届けします。

学童保育に関するありとあらゆる情報が満載。全国で4万人の人が購読しています。



2月号表紙

2月号特集「仲間・きずな・感動をあんやと ともに学んだ全国研」です。皆さんにもぜひ読んでもらいたい1冊になっています。

平成23年10月22・23日に開催された全国研 in 石川の様子が、とてもわかりやすく書かれています。記念講演では、子どもの作文を紹介しながら**子どもの内面と**、じっくりと子どもの心を感じ受け止める大人の暖かさ、親と指導員が協力して子育てをする大切さが伝わります。特別報告では指導員の経験談として、悩みながらも子どもと向き合おうとする指導員の姿が印象的です。また今回は東日本大震災報告として、自ら家族を失いながらも必死に子ども達を守ろうとしていた指導員達が多くいたことを知り、そしてまだ癒えることのない現実を教えてくださいました。



《八千代市指導員会 紹介》

八千代市社会福祉協議会委託の指導員が指導員会の会員です。

自分たちの仕事を豊かで、よりよい保育を行うために、会費を取り、委員会活動を通してその実現と話し合いを行なっています。

年に一度の総会を持ち、その年の活動計画を立て、委員会や指導員の打ち合わせの会議、ブロック（市内5ブロック）での会議にて、具体化しています。

総務は、会長・副会長・会計を置き、会の運営全般を把握し、窓口の役割を果たします。

役員会を開き、活動の進捗状況を確認したり、親睦会や送別会など、交流や互助に関わることを行なっています。

行事委員会は、市内合同行事であるドッジボール大会や、市連協主催の学童フェスタへの協力、指導員会主催の学童まつりを企画・運営します。

広報委員会は、私たちの学童保育を知ってもらう活動をしています。市のHPに「学童保育所だより」というコーナーを持ち、月に一度、定期的に更新を行ったり、緑が丘駅、ふれあいプラザなどで展示活動をしています。

研修委員会は、よりよい保育を行うための学習活動を企画・実行しています。新人研修や講師を招いての研修。実践記録集を綴じ、検討会を司会・進行を担当。県連主催の指導員学校の実行委員会参加や、自己研鑽の場として、保育を考える会を企画運営しています。

千葉県学童保育連絡協議会委員会は、常任幹事を選出し、日本の学童ほいく誌のモニターをしたり、ほいく誌の集金、配本をしています。

連絡会や県連絡会は、身分待遇について話し合いや学習会を持っています。

また、市連協の定例会に全ての常勤の指導員が毎月交替で、オブザーバー参加しています。

八千代市の学童保育を豊かにするために、学んだり、25周年を記念して新沢としひこさんを招いてのコンサートを行ったり、学童保育指導員のためのハンドブックを作成したり、30周年記念誌を編集したり、自分たちの仕事を点検するために保護者に向けてアンケートを取った年もありました。

市内の学童保育ガイドライン作成にあたって作業部会に委員を出したり、県の次世代育成計画の委員を送り出したりと、保育を豊かにするための協力も行なってきました。

八千代市の学童保育も1973年に市内3箇所が開所されてから、来年で40年目となります。指導員が、互いに保育の相談をしたり、合同行事を行ったり、保育を語り合うことを大切に、学童保育に通う子どもたちに、放課後のほっと出来る居場所を作るために、今後も、努力を怠らず、励ましあっていく場として指導員会の運営を丁寧に行なっていきたいと思います。

第37回 全国学童保育指導員学校・南関東会場

日にち：2012年6月3日（日） 会場：東京経済大学（国分寺キャンパス）（予定）

全体会 全体講義：山本博美さん「今あらためて問う、学童保育とは ～つながりの中で育ちあう」（仮題）

午後の講座は、昨年同様19講座を予定

学童保育とは・・・等の入門講座。子どもの発達や障害などについて学ぶ理論講座。具体的な保育の実践の中から学び合う、指導員が講師を務める実践講座。工作、遊び、読み語りなどの実技講座。学童保育の情勢を学ぶ、指導員のチームワークを考える、の2つの特別講座を用意しています。詳しい案内は、4月上旬から配布を始めます。今から、予定に入れておいてください。

行ってきました 月刊誌「日本の学童ほいく」編集会議第2弾

今回は2月18・19日に編集会議が開かれ、7～10月号の特集について検討が行われました。検討するにあたり、特集のテーマについて、まず「現状」として指導員・保護者の立場から体験談が話されます。保護者と指導員の学童保育への理解のギャップや、親と子どものニーズのギャップでも問題点が指摘されたものの、そこから少しずつ学童保育の大切さや理解を得られるようになること。人との繋がりは大切と理解しながらも、現在では親の学校・地域への責任も多く、役割をこなし切れない現実。思春期では、今まさに自分の子どもが思春期を向かえ、子どもも親も苦しみながら、それでも親として子どもを受入れようとしている話しには、一瞬会議室が静まり返る場面もありました。こんな編集会議の様子から思わず「父母会でもこういう話しができればいいな」と感じました。検討会であり決して答えを出す場ではありませんが、他人の子育ての思いや感じ方を聴くことにより、自分の子どもへの思いを改めて冷静に考えることができました。つい父母会では形式的に行政への要望事項や運営への話しになりがちですが、時には指導員から子どもの様子を聞きながら、子育てについて話すことができると、もっと父母会に興味を持つ人も増えるかもしれません。「日本の学童ほいく」をきっかけとして父母会や指導員会でも話しができると、よいですね。